



実中新聞

校訓

努力 協同 自律



4月号

海陽町立実喰中学校

2024.4.19

【学校教育目標】 夢や目標を持ち、人間性豊かで実践力と忍耐力のある生徒の育成
 【めざす生徒】 自律的な生徒 協力する生徒 努力する生徒
 【めざす教師】 生徒と共に伸びていく教職員集団

4月8日(月)

着任式・始業式

今春の定期異動により、2名の教職員が転入してまいりました。全校生徒48名、教職員15名(常勤)、計63名でのスタートとなりました。



1年間よろしくお願いたします。

職員紹介

本年度の実喰中学校の教職員を紹介いたします。今年度も、昨年度に引き続き、温かいご支援とご協力をお願いいたします。次のようなスタッフで、子どもたちのために、頑張りたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

校長	久保 善信 (くぼ よしのぶ)
教頭	中田 里江 (なかた りえ)
教務主任	山本 耕治 (やまもと こうじ)
1年主任	田上 陽子 (たがみ ようこ)
1年担任	笹田紀久美 (ささだ きくみ)
特支担任1年福担	大崎 綾子 (おおさき あやこ)
1年福担	池内 良太 (いけうち りょうた)
2年主任	小泉小百合 (こいずみ さゆり)
2年担任	神戸 翔太 (こうべ しょうた)
特支担任2年福担	中口 尚美 (なかぐち なおみ)
3年主任	芝本 和史 (しばもと かずふみ)
3年担任	岩田 真実 (いわた まみ)
3年福担	溝内 恒河 (みぞうち こうが)

養護	戎田 愛結 (えびすだ あゆ)
事務主事	尾川 優花 (おかわ ゆうか)

※太字は転入教職員
 メイ・リース先生
 加藤 宏猛 (かとう ひろたけ)

ALT
 スクールカウンセラー

入学式 4月9日(火)

18名の新入生の皆さん入学おめでとうございます。皆さんの入学を生徒・教職員全員で心待ちにしていました。中学生としての自覚をもち、自分で考え行動をし、勉強や部活動に積極的に取り組んでいきましょう。



新入生の皆さんへ



- ①「身近な目標の達成と将来の夢に向かって」
 具体的な目標をもって頑張り、日々の振り返りをしながら取り組んでみてください。
- ②「みんなが楽しく学校生活が送れるように」
 一人ひとりを大切にし、それぞれの意見を尊重できる人であって欲しいです。みんなが協力して動ける集団になれるように、一人ひとりが考えていってください。
- ③「感謝の心を忘れずに」
 みなさんの成長や目標達成のためには、多くの人の支えが必要となってきます。その人達に常に感謝の気持ちをもち接していくことで、人としての成長を期待しています。



2・3年生の皆さんへ

新入生は中学校生活が初めてで、わからないことがたくさんあります。2・3年生の皆さんがお手本となり、新入生を良き方向へと導いてあげてください。



～子どもの可能性を伸ばす十か条～

私はこれまでの自分自身の子育ての経験とアスリートの経験をもとに、子どもを育てる上で大切にしたいことを『子どもの可能性を伸ばす十か条』として整理してみました。この十か条の考え方が、私の子育てを楽しく楽にしてくれましたが、子育てが終わった今でも大事にしていることであり、私を成長させ楽しくしてくれる十か条になっています。

- 一、「互いを尊重し合うこと」の大切さ
- 二、「求められていること」の大切さ
- 三、「気づく」ことの大切さ
- 四、「目標を持って続ける」ことの大切さ
- 五、「正しい答え」はひとつではないことの大切さ
- 六、「絶対評価」であることの大切さ
- 七、「何でも「楽しく」してしまおうこと」の大切さ
- 八、「励ます」ことの大切さ
- 九、「ほめる」ことの大切さ
- 十、「待つ、そして学び続ける」ことの大切さ

その一番のベースは、子どもは社会からの預かりものであり、社会に役立つ一人の人間として成長するまで親が子どもに寄り添いながら、一緒に育つことがミッションだと思っています。

特に大事にしていることは、《感謝すること》と《楽しむこと》です。何かあればそこに戻ればよいと考えていますので、あまり迷うことはありませんでした。

《感謝すること》については、ただ心の中で思っているのではなく、相手に伝えることも大切にしています。

《楽しむこと》について大事にしていることは、楽しいことだけをやるのではなく、「やることを楽しむ」ことをとても大切にしています。例え、辛いことや嫌なことがあっても、どうしたらそれを楽しむことができるかを考えることを大事にしています。

例えば、たくさんのお家事の中で、私は料理を作ることも最後の片付けも楽しむことができています。しかし、どうも外の庭掃除があまり好きではないのですが、これを楽しむために音楽をかけたり、落ち葉を集めて最後に焼き芋を作ることを想像したりし、鼻歌を歌いながらやっていました。すると、愛（長女・元プロテニスプレイヤー）や妹の舞が「私たちもやる!」と言って手伝いに来てやってくれていました。現実にはそんなに楽しくなかったと思うのですが、子どもたちは結構楽しんでいる!ということが常にありました。

今では、家族全員に身につけている特技になっています。こうした日常体験の中で起こる様々な経験・体験を通して十か条を子育てのツールとしてひとつでも活用しながら、ありのままの自分でいられることが自分を楽にし、楽しい子育ての極意に繋がり、更にこの優しさと余裕が、子どもたちの可能性に気づき、引き出し、伸ばしていくことに繋がるのではないかと思います。

一般財団法人次世代SMILE協会代表理事 杉山美沙子
「1日1話、読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書」
より引用